宇都宮市立石井小学校第４・５学年児童質問紙調査

★傾向

〇良好なもの　●課題が見られるもの

〇「家で，学校の宿題をしている」と回答した児童が95%以上を占め，「宿題が自分のためになっている」という意識も高い。
〇「家庭で，学校の授業の復習をしている」「宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童が県平均をそれぞれ10ポイント以上上回っており，家庭学習が習慣化できている児童が多い。このような意識や家庭学習への取り組みが，基礎的な学習内容の定着につながっていると考えられる。今後とも，家庭学習の習慣化に努めていくようにしたい。
〇「話し合うときに友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童が92%以上で，聞く態度が身に付いている。
〇95%以上の児童が「物事をやり遂げてうれしかったことがある」と回答し，また，「人と話すことは楽しい」と回答していることから，学び合うよさを体験することができている。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ」と回答した児童の割合が50%程度と低く，聞くことはできるが話すことは苦手だと感じている傾向が強い様子がうかがえる。
●「難しい問題にであうと，やる気がでる」への肯定的回答率は50%程度と低く，基本を応用して解決しようという意欲が低い。
●朝食を食べている割合は95%であるが，5%の児童が何も食べずに登校していることを考えると，気力や体力・学習効率を考えても100%を目指したい。また，「毎朝，自分で起きる」「早寝・早起きを心がけている」「好き嫌いをしないで食べている」などの質問への肯定的回答率が低く，望ましい基本的な生活習慣が十分に身に付いていない児童が多い傾向がみられる。
●「自分の行動や発言に自信をもっている」児童が62%程度と低いことが，話すことの苦手意識にも関係していると思われる。
●「地域社会などでボランテア活動に参加したことがある」割合は，本校のみならず平均が低いが，特に4年は35%と，市平均より12ポイント以上低いため，様々な機会で呼びかけていきたい。